１．プログラムの自己点検・評価の組織

常葉大学　教養教育運営委員会

2. 到達目標

ICTを利活用した課題解決のための基礎的素養と数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な理解力を修得すること。

３．対象科目

全学共通科目　「情報リテラシーⅠ」（必修）、「情報リテラシーⅡ」（必修）

４．点検・評価結果

自己点検・評価の視点	取組み状況と評価
プログラムの履修・修得状況	全ての学生に対し受講機会を提供するため、令和６年度から全学共通科目の「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」をリテラシーレベルの科目として開講した。1年次の開講科目（必修）として、10学部19学科のそれぞれ2035名及び2046名の学生が受講し、1965名及び1930名が修了（修得率96.6%及び94.3%）した。
学修成果	対象科目である「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の各授業の具体的な到達目標と授業計画はシラバスに明示し公表している。修得率はそれぞれ96.6%及び94.3%であり、シラバスに記載の到達目標は概ね達成しているといえる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	受講者2013名を対象に「情報リテラシー（数理・DS・AI）に関するアンケート」を行ったところ、773名（回答率38.4%）から回答を得た。はじめに「情報リテラシーで扱われる内容は全体として理解できましたか。（5段階評価）」の設問に関して、回答者全体の評価の平均値は4.01（sd = 0.84）が示された。次に「数理（Excel等による統計処理（合計・平均を求めるなど））に関する内容を理解できましたか。（5段階評価）」の設問に関して、評価の平均値は3.87（sd = 0.95）が示された。続いて「データサイエンス（コンピュータを用いた情報処理、Excel等によるデータのグラフ化や視覚化）に関する内容を理解できましたか。（5段階評価）」の設問に関して、評価の平均値は3.83（sd = 0.93）が示された。最後に、「AIの活用に関する内容を理解できましたか。（5段階評価）」の設問に関して、評価の平均値は3.76（sd = 0.95）が示された。以上の学生アンケート調査（それぞれ5段階評価）の結果から、当該授業に関する内容に関しては概ね理解されていると考えられる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	「情報リテラシー（数理・DS・AI）に関するアンケート」（対象受講者2013名、回答者773名、回答率38.4%）により「後輩等他の学生に情報リテラシーの履修を推奨したいと思いますか。（5段階評価）」の設問を確認したところ、回答者全体の評価の平均値は4.09（sd = 0.95）が示されたことから、情報リテラシーⅠおよび情報リテラシーⅡの受講を通して、後輩等他の学生へ当該授業を推奨したい考えがあることが示された。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学的な履修者数と履修率向上に関して、情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは1年次の開講科目として必修科目であるため、文系理系問わずすべての学部・学科の学生が履修するため、履修率は100%である。今後の計画として、教養教育運営委員会において、定期的に授業内容について見直し等を検討し、当該授業の改善と向上を図っていく。

5. 学外からの視点

教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和6年度に1年生対象の科目として開講したため履修者が卒業しておらず、現時点での詳細な評価はできないが、定期的に全学的な卒業生調査を実施しており、数理・データサイエンス・AI教育プログラム開始後と開始前を比較することで、本教育プログラムの評価を行う。また、学生の就職先、地域・企業・公共団体等への調査も全学的に実施し、本プログラムを修了した卒業生の採用状況、企業評価を把握している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では毎年度、商工会及び企業等の有識者を構成員に含む外部の委員が教育等に関する評価及び検証を行う「外部評価委員会」を実施している。令和5年度に実施した外部評価委員会では、本学の教育改革の一つとして「全学教育科目」の再構築及び「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」への申請も含めたデータサイエンス教育の充実についての取組みを報告し意見を求め、県内の当該教育の充実化を図った。今後も継続してデータサイエンスに関わる定期的な意見収集を行い、教育プログラムの改善に活用する予定である。